

光・量子飛躍フラッグシッププログラム (Q-LEAP)
ステージゲート評価結果 (5年目)

1. 研究開発課題名

固体量子センサの高度制御による革新的センサシステムの創出

2. 研究代表者名 (所属機関名・職名は評価時点)

国立大学法人東京工業大学 工学院・教授

波多野 睦子

3. ステージゲート評価結果 (5年目)

○結果

5年目ステージゲート通過とする

○評点

S:評価項目を満たしており、特に優れたところが認められる

○総合評価コメント

生体計測、電池・パワーデバイス計測それぞれで設定された数値目標を達成しており、SG 目標を達成していると認められる。材料開発から、感度向上、デバイス化・集積化、応用展開に至るまで、全体戦略のもとで研究開発を推進するとともに、企業との連携も活発に実施し、知財戦略も積極的に行っていることも評価できる。博士課程進学者の増加や企業研究者の啓発など人材育成面での貢献も大きい。さらに、国際シンポジウム開催や量子固体センサ研究会の設立など、アウトリーチ活動も活発に行っており、Flagship としての役割を十分に果たしている。

一方、海外の競合機関との比較ではまだ及ばない部分もあり、今後は海外を凌駕するための戦略の立案と基礎研究の一層の充実を期待する。

以上を踏まえて、本課題は継続するのが妥当と判断する。

以上